



去る10月26日に第203回国会が開会。

かねだ代議士は衆議院・予算委員長に就任いたしました。

就任にあたり多くのご祝意を頂きましたことに、改めて御礼を申し上げます。

11月2日と4日に、予算委員会の基本的質疑が行われ、菅新内閣への質疑が行われました。2日間、14時間にわたり、与野党あわせて20名の委員から、コロナ対策や経済・雇用や外交、学術会議について沢山の質疑が行われました。おかげ様で、かねだ予算委員長の采配により、円滑かつ円満な委員会の進行が図られました。



全閣僚(22名)が出席のもと、予算委員会の質疑を仕切るかねだ委員長。(11月2・4日)



予算委員会理事会より。各党の代表者が集まり、委員会の運営について事前に協議。

金田委員長、初の仕切り役

質疑やり直し指示も

衆院予算委員会の金田勝年委員長(衆院秋田2区、自民)は2日、一問一答形式の論戦に委員長として初めて臨んだ。議論は日本学術会議の会員任命拒否問題に集中。終了後、「できるだけ十分な説明をしてもらうことが大切。質問と答弁が噛み合うように努力したつもりだと述べた。

学術会議に関する質疑では、菅義偉首相の答弁内容に納得できない野党側の理事らが、委員長席の周囲に集まり協議。金田氏は首相の答弁について「答えていると思う。言える限界を答えている」と話した。野党席から激しいや

永田町 交差点

じが飛ぶ中、金田氏が質問と答弁をやり直させる場面もあった。

あす4日の予算委では、立憲民主党の枝野幸男代表と辻

元清美副代表、共産党の志位和夫委員長ら野党幹部が相次いで質問に立つ予定。再び激しい応酬が予想される。

金田氏は「現下の最重要課題である新型コロナウイルス対策をはじめ、中身の濃い議論になるように円満、円滑な進行を心掛けた」と語った。(小松田直嗣)

衆院予算委員会で議論が紛糾し、与野党の理事と協議する金田委員長

(令和2年11月3日 さきがけ新報より)